

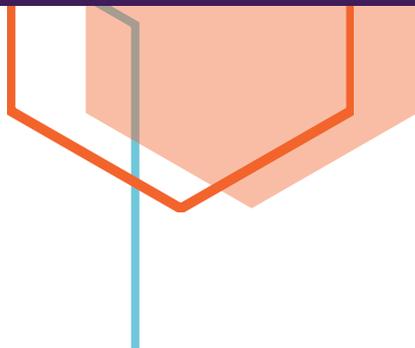


## 第2層協議体

ミニふれあい会議

桜台小学区 住民の助け合い活動に向けて

桜台地区は、比較的現役世代が多く住民同士の交流が少ないこともあり、目立った助け合い活動は行われていない現状となっている。そこで桜台センターで行われた地域サポーター養成講座の参加者とSCがつながりを持つことで住民の助け合い活動を促していく方向性とした。





## 第2層協議体



### きっかけ

桜台小学区でも住民の助け合い活動を発足するため、中心となって活動する住民とSCがマッチングする必要がある。桜台センターで行われた地域サポーター養成講座の参加者とのマッチングが可能か桜台センター長大田様と面談することとした。

### 第1回会議は

秋本：桜台地区でも高齢者のみの夫婦世帯が増えている。これからは介護保険制度だけで暮らしを支えてもらうことは厳しくなる。また、地区社協だけでは住民の助け合い活動がまかない切れない。桜台地区も地域の特性も活かして助け合い活動が活発になるようすすめていくことはどうだろうか。

活動助成金の都合で高齢者が中心にはなってしまうが、試験的な取り組みの段階から助成することはできる。

大田：立地的に白井より印西を利用して生活している方が多いことや、自治会に不参加の世帯が増えており、住民同士のつながりや助け合いが希薄であるという点で悩んでいる。秋本氏の話を読まえ桜台センターはどのような立ち位置でいけばいいのか。

秋本：SCや住民に情報提供をしてもらいたい。

大田：今年度センターは情報基地局になろうということを目指していた。地域サポーター養成講座の参加者を再度募ったが仕事などの都合でなかなか集まらず、日にちは未定。集まる日にちが決まったらSCへ声をかける。

秋本：その際には社協で行ったちよい困講座の参加者にも声をかけてみる。市・包括から住民の細やかな状況が入ってこない。こちらがアンテナを張りサポート体制を作っていきます。

SCの動きや考え方、他の連携

はじめての話し合いの  
為、今後予測される状  
況や桜台地区の現状  
についてお伝えした。

## 第2層協議体

CSの動きや考え方、他の連携

### 続き

大田：地域サポーターは現役世代の方々。まち協と似ていることをやっていくなら手を取りあうことができればよい。

秋本：まち協はもっと組織めいた繋がりだが、我々は個人の暮らしの些細な事にアプローチしていく。

大田：痒い所に手が届くということをやろうとしているのだと理解できた。

### 展開

桜台センターの方で日程調整ができ次第、地域サポーター養成講座参加者とSCのマッチングを行う。その際にはSCからちよい困講座参加者に声をかけ、住民同士で交流、協力してもらうことができるよう促していく。

○桜台センター 大田様から6月、7月初旬に一度話し合いを予定してもらう。



桜台センターの講座に参加した地域サポーターと SC が顔合わせとなり、6月24日（金）に SC から助け合い活動について、「マンガで楽しく理解しよう」の資料を基に説明をした。



### 地域サポーターからの質問・意見

1, 生活支援コーディネーターとは？

地域における生活支援等の体制整備に向けた調整役として、「生活支援コーディネーター」を配置している。

2, 助け合い活動って何？

住民が自主的に行うボランティア活動で、4つのくりでお伝えすると、見守り、買い物支援、集いの場、ちょっとした困り事などがある。

3, 桜台地域の高齢者の困り事ってどんなことがあるのか知りたい？

次回の機会に包括から回答する。

4, また、困り事はどこからどういう経由でくるのか？

次回の機会に回答する。



5, 自分たちは、日中仕事をしている人が多いため、つながりをつくることが必要  
民生委員や住民のボランティア登録者等を含め、みんなで次回検討したい。

○次回に関しては、中央包括支援センターも交えながら交流することとなった。

### ●7/27(水) 中央包括からの問題吸い上げ 村上、鈴木、市村

普段の業務の中で感じる桜台の地域性や課題、あったらよいもの

<地域性> 隣近所の付き合いは他地域に比べ希薄。市が行っている見守りサービスも利用希望者が少ない。独居か夫婦で住み、子どもが離れて住んでいる世帯が多い。買い物できる場所は他地域よりは多くあるが、マンションにはエレベーターが止まらない階もあり外出や買い物がおっくうになっている高齢者がでてきている。

一方、金銭的に余裕のある方は多くいるため多少お金をかけてでも良いサービスを受けたいと考える方が多く感じる。

<課題> ・買い物には行けるものの、帰りに荷物を持ちながら歩くことができない人が増えてきている。荷物を持ってくれる人がいれば買い物に行けるにも関わらず現状では他の手段がヘルパーサービスで買い物代行となってしまう。

・別居の家族が電話や訪問で、明らかに認知機能の低下が進み生活が立ち行かなくなつてから包括に相談に来るケースが多い。(それまではご本人がなんとか取り繕っていたのでなんとかなっていたというケースが多い。)

<今後地域に必要となる資源>

○ワンコインサービス：ちょっとした困り事を解決する活動

(地域柄お金の支払いがあった方が、割り切って依頼しやすい。)

○買い物支援：同行して、買い物後の荷物をもってもらう。

(買い物をする場所は近いが荷物を持って家まで帰ることが大変という理由から。)

○集いの場：地区社協以外の集いの場、楽トレ体操をしているところがない。